

mini wonders

20世紀初頭から始まり、今もなお活発に発展しているチェコのおもちゃ。この展示は、そのブームとも言える現象に焦点を当てたものです。革新、独創性、伝統という点において、現在の国内生産の中でも特出したものを中心に展示しています。この100年のチェコ文化史に刻まれながらも、今なお生産が続いている近代のアイコン的な作品とともに、現代作家の作品をご紹介します。1920年のものからここ数年で新しく作られたものまでをご覧ください。

世界的に、「チェコのおもちゃ」という言葉が認知されるようになりました。1958年のブリュッセル万国博覧会では、イジー・トルンカがヴィクトル・フィクスルやヴァーツラフ・クバートとともに企画した、子どもの世界をテーマにした展示が大成功を収めました。近年では、2011年にパリ装飾芸術美術館でリブシェ・ニクロヴァーのレトロな作品の展示が「Plastique ludique (たのしいプラスチック)」という題名のもと実現し、チェコのおもちゃへの関心を呼び起こしたのです。続いてその1年後には、ニューヨーク近代美術館の展示「Century of the Child: Growing by Design 1900-2000」が行われ、チェコのおもちゃが重要な存在として紹介されました。

本展「mini wonders」のねらいは、長きにわたる伝統をもつおもちゃの老舗メーカー（Merkur、Fatra、Detoa など）の製品が注目されることにあります。幅広い世代に愛されてきたものも数多くあります。こういった製品は国内にとどまらず、国外でも愛されてきました。若い世代のデザイナーやイラストレーターは今、以前は木製のものが主流であったチェコのおもちゃの伝統を受け継ぎながら、同時に新たな発想と解決策による爽やかな風をもたらしています。デザイナーズ・トイは、偏見なく自由に広がるファンタジーを作家たちに与えます。それにより作家たちがクリエイションの境界を踏み越えたり、アートに遊び心をもって踏み込んだり、技術的な独創性の可能性が生まれます。現代作家のデザインによるFatra社のコレクションが成功を収めたように、国内メーカーが高いポテンシャルをもっていることを証明する絶好の時なのです。

ここに展示されているのは、20世紀のオリジナルデザインの復刻もしくは現代デザインの作品です。子どもからも大人からも評価され、装飾品・コレクション品としての人気を誇っています。展示ではおもちゃを子どもらしさ、喜び、創造性のシンボルとして紹介しています。これらは、子どもだけではなく大人もが持っている権利です。おもちゃは生まれた時から、人々の想像力や知性、感覚的・運動的な能力を目覚めさせ育ててくれます。世の中の小さな驚きたちを形にしており、そしてそれは奇跡を生む力を持っているのです。

キュレーター：テレザ・ブルトハンソヴァー

展示デザイン：アンナ・コゾヴァー、ジェリー・コザ (Atelier SAD)

グラフィックデザイン：ズザナ・レドニツカー (Studio Najbrt)

プロジェクトマネージャー：サンドラ・カラチョニ